

(1) 規定…協業とは

p249- ○比較的大きい労働者数が、同じ時間に、同じ空間で、同じ商品種類の生産のために、同じ資本家の指揮の下で働くことは、歴史的にも概念的にも、資本主義的生産の出発点をなす。

- ・初期の工場制手工業は、同時に同じ資本家によって使用される労働者の数が比較的大きいということ以外には、ほとんど同職組合的手工業と区別されない。

※差当たりは区別は単に量的である。

p250-p252 ○しかし一定の限界内では、ある変化が生ずる。

- ・平均的労働力の支出 …多数の労働者が総括されると(個別的差異は)相殺、消滅する
- ・12人の労働者を雇う2人×6小親方。個別的差異・熟練度の違い→剰余価値率の差が。

p252-254 ○多数の労働者を同時に使用することは、「一つの革命」を引き起こす。

- ・(労働過程で共同消費される)生産手段…建物、倉庫、容器、危惧、装置等々。
- ・場所的に集合して労働するだけで、協力して労働しない場合でも受け取る。
- ・労働手段の一部は、この社会的性格を、労働過程そのものが獲得するより以前に獲得するのである。 —?節約効果?(例—建物、照明)

※【生産手段】=労働対象(原材料・土地・樹木・鉱石など)+労働手段(道具・機械・建物・道路など)。

p254(協業とは)同一の生産過程において、または相異なってはいるが関連のある諸生産過程において、計画的に相並び、相協力して労働する多数者の労働の形態。

p256(人間は社会的動物)たいていの生産的労働にあつては、たんなる社会的接触が競争力と活力の独自の鼓舞を産み出し、それらが個々人の個別的作業能力を高めて、…個々個別別の労働者よりも…はるかに大きい総生産物を供給する。 ※アリストテレス云々

(2) 結合労働日

p257-個別労働の…各段階が協業の結果として、労働対象がより急速に通過することがありうる。例—煉瓦積み作業

- ・協業者たちは…労働の結合が生ずる。
- ・結合労働日は…個別的な労働日より、より迅速に総生産物を作り上げる。生産物の種々の空間部分が、同時に成熟する。

※(注14)部分的分業の発生

p259-(多くの結合労働日の同時的利用)

p260-○協業は労働の空間範囲を拡張することを可能にするので、ある種の労働過程にとっては、労働対象の空間的関連によつても、すでに協業が必要とされる。

- ・例—土地の干拓、築堤、灌漑、運河や道路や鉄道の建設等々。

(他方)生産の規模に比して、生産領域を空間的に縮小することを可能にする。

→このことによつて、多額の空費が節約される。この縮減は、労働者の密集、種々の労働過程の凝集、および生産手段の集積から生ずるのである。

p261-結合労働日は、より大量の使用価値を生産し、…必要な労働時間を減少させる。

※個々別々になされた個別労働日の総計に比して

○結合労働日の高められた生産力の獲得＝

・労働の空間的作用範囲の拡大／生産規模に比して空間的場面を縮小／多くの労働を僅少な時間に流動させる／個々人の競争心を刺激して活力を緊張させる／多数者の同種作業に連続性と多面性の極印を捺す／生産手段の共同使用による節約／個別労働に社会的平均労働の性格を与える－からであろうと…

○結合労働日の特殊なる生産力は、労働の社会的生産力、または社会的労働の生産力なのである。それは協業そのものから生ずる。

(3)協業の2条件－資本の「大いさ」と「指揮－監督という労働」

p262-○(協業の条件1)より多くの資本支出を必要とする。資本の大いさに依存…不変資本の大いさ＝労働者の数。可変資本の大いさ

p263-○(協業の条件2)労働に対する資本の指揮は、労働過程の遂行そのものための要件に、一つの現実的生産条件に発展する。

p264-○資本家の指揮は、社会的労働過程の性質から発生した、一特殊機能に止まらず、同時に社会的労働過程の搾取の機能である。

p265- 一面では生産物の生産のための社会的労働過程であり、他面では資本の価値増殖過程であるという「生産過程そのものの二重性」

○(監督という労働)資本家はまず手労働から解放され、…監視する機能を、一つの特別な種類の賃金労働者に譲り渡す。資本の指揮の下に協働する労働者団。

(4)資本主義的協業

p268-270 人類の文化の初期の協業…「生産諸条件の共有」と「共同体の臍帯」が資本主義的協業と区別される

・資本主義的協業が、協業の一つの特別の歴史的形として現れるのではなく、協業そのものが、資本主義的生産過程に特有な…ひとつの歴史的形態として現れるのである。

・協業そのものは、分立した独立労働者あるいはまた小親方の生産過程に対立する、資本主義的一特殊形態として現れる。

それは現実の労働過程が、資本従属することによって受ける最初の変化である。

・同一の労働過程で比較的多数の賃金労働者を同時的に使用することは、資本主義的生産の出発点をなす。

○単純な協業は、分業と機械装置とが重要な役割を演ずることなくして資本が大規模に作業するような生産諸部門においては、なおつねに主要な形態なのである。

※次章へ